

第10回 鷓川・沙流川減災対策協議会【議事概要】

日 時：令和6年2月29日(木) 13:30~14:30

場 所：むかわ温泉四季の館 たんぽぽホール

会議資料：室蘭開発建設部ホームページに掲載

参加機関：室蘭開発建設部

室蘭地方気象台

旭川地方気象台

胆振総合振興局

上川総合振興局

日高振興局

むかわ町

厚真町

占冠村

日高町

平取町

北海道警察(WEB)

北海道旅客鉄道(株)(WEB)

北海道電力(株)(WEB)



<開会>

【北海道開発局 室蘭開発建設部 部長】

近年、気候変動の影響により、全国各地で水害が頻発・激甚化する中で、「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考え方に立って、社会全体でこれに備えるため、ハード・ソフト一体となった水防災意識社会再構築ビジョンの取組を、国管理河川、あるいは中小河川も含めた全国の河川で進めており、洪水等からの逃げ遅れゼロ、それから、社会経済被害の最小化を実現化するための対策を推進していく必要がある。

新型コロナウイルスの影響により、第7回から9回までは書面開催という形を余儀なくされたが、コロナウイルス感染症法の位置付けが、昨年5月8日から5類感染症に変更されたため、対面での開催が可能となった。

今回の協議会では、関係機関の取組方針に基づくフォローアップ、情報提供等について、ご確認を頂き、これから、融雪、出水の時期を迎えるにあたり、出水に対する防災・減災対策に万全を期すために、流域の関係機関が一同に集まる貴重な機会と考えている。



<議事(1) 鷓川・沙流川減災対策協議会規約の改定について> 資料1

幹事会の組織機構に変更があり、むかわ町では、総務企画課長から情報防災対策室長に変更となったので、協議会規約の改訂を行う。

<議事(2) 鷓川・沙流川の減災対策協議会の経緯について> 資料2

平成28年5月に本協議会が設立され、同年11月には、概ね5年間を目標とする鷓川・沙流川の減災に関する取組方針が策定・公表された。その後、平成30年2月には、北海道の管理区間も含めた取組方針に改訂され、令和3年6月には、現在の取組方針が策定された。

令和5年度は、6月2日に幹事会をWeb会議で開催し、出水期前の情報共有を行った。その後、1月の幹事会(書面開催)を経て、今回の協議会に至っている。

<議事（3） 鷓川・沙流川の取組方針に基づくフォローアップについて> 資料3

【室蘭開発建設部 鷓川沙流川河川事務所】

洪水氾濫を未然に防ぐ対策というハード対策で、鷓川・沙流川の河道掘削を進めている。

また、水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項として、重要水防箇所の手廻り巡視を行っている。

【室蘭開発建設部 治水課】

情報伝達、避難計画に関する事項の取組として、鷓川・沙流川の流域の関係機関と水害タイムラインの運用訓練や会議を行っている。また、流域治水プラットフォームを活用した情報発信も行っている。

平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項の取組として、管内の小学校を対象としたマイ・タイムラインの作成支援を行っている。アンケートの結果では、「事前準備や早期避難の大切さ」を9割以上の児童に回答を頂き、「台風が発生したら、すぐに準備や警戒を心掛けたい」等の意見がありました。

【室蘭開発建設部 防災課】

災害対策用機械の操作訓練について、令和5年度は計4回の訓練を実施している。排水の揚程を10mから20mに変えて、夜間に訓練を実施するなど、本番を想定した訓練を実施している。

また、自治体の方に見学していただくなど、災害対策用機械について理解を深めていただけるよう案内も行っている。

【室蘭地方気象台】

気象台としての取組としては、主に悪天時における情報提供を行っており、関係者等の意見等を聞きながら、電話解説及び防災メールの改善を行なっている。その他、タイムラインの訓練や見直し、勉強会、説明会等を通して、悪天時の対応について習熟を図るといった取組をしている。

【室蘭地方気象台 台長】

防災メールについては、我々気象台が持つ予測について、どういった現象が、いつ、どの程度、どういった影響を及ぼすのかを図形で分かりやすく解説している。日々、改善をしているので、関係機関の皆さんからは忌憚のないご意見をいただきたい。国の機関、道の機関、自治体の皆さん、様々な機関、ライフライン関係者の方々にも広く提供しているので、ぜひ利用いただきたい。



【旭川地方気象台】

「顕著な大雨に関する気象情報」の改善ということで、線状降水帯に関する情報発表を、これまでより最大30分程度早く発表できるよう改善をした。今後さらに、より早く、より正確な発表ができるように、改善を進める予定である。

上川・留萌管内防災連携TVについては、旭川地方気象台独自の取組でWeb会議ツールを用いて市町村に対して気象解説を行っている。令和3年12月から行っているが、その後、令和5年8月から上川・留萌管内の市町村に加え、旭川・留萌の各開発建設部、上川・留萌の各振興局、気象台、各市町村を加えた5者連携として新たにスタートし、気象解説だけではなく、市町村や各防災関係機関の間の情報共有を行う場として、Web会議ツールを用いた解説の場を用いている。

市町村との大雨事例の振り返りについては、大雨による災害等が起こった事後、該当する市町村と防災対応などの振り返りを行っている。今年度も8月上旬の停滞前線による大雨事例について振り返りを行い、自治体の防災対応をどのように支援することができたのか、その改善を目的に、いくつかの市町村と振り返りを行っている。

【旭川地方気象台 次長】

防災連携 TV ということで、占冠村さんも入っていただいているが、上川管内の関係機関、防災機関の連携ということで、様々な情報共有ができる仕組みを整えている。今後、市町村との振り返りなども行いながら、占冠村の防災・減災、ひいては鷓川・沙流川の減災に尽力してまいりたい。



【胆振総合振興局 室蘭建設管理部】

私どもは、2級河川のハード整備を中心に取組を行っており、今回の圏域の中では改修事業を厚真川と入鹿別川で実施している。

厚真川については、上流に厚幌ダムを整備すると同時に、下流から堤防整備、あるいは掘削を実施している。

【胆振総合振興局 地域創生部危機対策室】

地域創生部危機対策室の取組については、平時から住民等への周知・教育・訓練に関する事項として、防災イベントを通じ、様々な災害での防災・減災に関する広報活動を実施した。

また、地域防災マスター制度により認定した「北海道地域防災マスター」に対し、令和6年2月にフォローアップ研修を実施し、防災活動のリーダーとして取り組んでいただけるよう、座学による事例紹介や訓練を行った。引き続き、市町・関係機関の皆様と連携し、地域防災力の向上のための様々な施策を推進して行く。

【上川総合振興局 旭川建設管理部】

旭川建設管理部の取組については、洪水氾濫を未然に防ぐ対策として、鷓川流域において河道内樹木の伐開などを行い適正な河道の維持管理を行っている。

鷓川流域では、占冠村の双珠別川などにおいて、重要水防区間を中心とした伐木を計画的に実施しており、令和6年度以降も必要な箇所を随時対応していきたい。

平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項として、令和3年の水防法改正に伴い、水害リスク情報を共有するという一方で、簡易的なiRICという手法を用いて作った想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、道庁のホームページで公表している。

【上川総合振興局 地域創生部危機対策室】

市町村の防災訓練や、一日防災学校を通じた地域防災力の向上を図る取組を行っています。主な内容として、市町村に対する取組の支援については、各市町村の災害対策本部の設置運営訓練や防災関係職員に対する研修、また、住民を対象とした避難訓練など、各市町村のニーズに合わせて、企画から実施までをサポートを行っている。

また、学校の授業として実施する一日防災学校については、子どもたちが楽しみながら防災について学べるよう、避難所運営ゲームや防災クイズなど、学校のニーズに合わせて企画から当日の運営までをサポートしている。

今年度実施した主な研修会としては、災害時における避難所運営を疑似体験できる「北海道版避難所運営ゲーム (Doはぐ)」を行う講師の養成研修会、地域の防災活動リーダーとして活躍していただく「北海道地域防災マスター」の新規の認定研修、フォローアップ研修などを実施し、多くの参加をいただいている。

【上川総合振興局 旭川建設管理部 事業室長】

上川総合振興局では、鷓川の上流の双珠別川というエリアの計画的な樹木の伐開等を、計画を立てて8年サイクルで実施している。引き続き、適切な維持管理を進めていく。

今年度、土別市で大きな出水があり、温根別川で若干の外水氾濫があった。その時には、上流の農業ダムで事前放流の取組を実施するなどを実施している。

また、避難の取組についても、継続的に、粘り強く実施していきたい。



【むかわ町】

今年度の減災取組内容については、鷓川むかわ町水害タイムラインに関する各種訓練、会議を実施しており、昨年8月には、タイムラインの運用開始後、初の参画機関全体の会議を実施して、タイムラインの意義の認識と情報共有を図っている。

また、昨年11月には、定期的実施している鷓川の河川氾濫を想定したタイムライン運用訓練についても、関係機関と連携しつつ開催し、ステージ移行等の実践的な訓練を行っている。

防災講習会の開催による町民の防災意識啓発を実施し、河川氾濫時の避難行動やハザードマップの活用方法について防災講習会を行い、啓発活動を行っている。

鷓川沙流川河川事務所との合同点検の実施をしており、今年度については、昨年6月に現地点検に加え、河川事務所と打ち合わせと情報共有を行い、鷓川の河川防災における課題を再認識する機会とした。

【むかわ町 町長】

近年、気候変動が、かなり加速化してきている。気候変動の影響が最も高い北海道、むかわ町においては、鷓川の減災に関する取組方針に基づいて、次年度以降も引き続き、いざという時の判断力を養う各種の訓練や研修などを行いながらタイムラインの運用の習熟に努め、水害への対応力強化のため、必要とされる取組の実践に努めていきたい。

日常の備えを固めていく事前防災、事前復興、こういったところを睨みながら、防災先導の町として防災啓発行事や講習など開催しながら、浸水被害、河川氾濫及び避難行動等について情報の発信、共有を行うなど、水防に関わる事業を計画的に進めていきたい。

日本海溝、千島海溝周辺海溝型の津波避難特別強化地域にも指定されている町の一つとして、それらへの視点もしっかりと踏まえていかなければならないと考えている。



【厚真町】

胆振東部地震のときに、応急的・緊急的に策定をした厚真地区緊急対応タイムラインが、震災から5年を経過し、実情とそぐわない部分も出てきたため、令和5年度に見直しを行っている。ワークショップにて計画を修正・改訂を図り、2月8日には改訂した案を持ってタイムラインの運用訓練を、翌月には職員ワークショップとして振り返りを行い、以降、「厚真町水害対応タイムライン」として運用をしていく。

来年度は、新たに町内の自治会を主体としたコミュニティタイムラインにも取組んでいきたい。

【厚真町 副町長】

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では大規模な土砂崩が発生し、10月1日から2日にかけては台風24号の影響による被害が増大する恐れがあったことから、気象台をはじめ関係機関のご協力をいただいて策定・運用を始めたのが厚真町におけるタイムラインの始まりとなっている。今後ともワークショップなどの取組を継続し、職員の連動と関係機関との連携を図ってまいりたいと考えている。

町内の自主防災組織が主体となっているコミュニティタイムラインの取組についても、推進を図ってまいりたいと考えている。



【占冠村 副村長】

一日防災学校の取組として、小中学生対象に職員が出向き、意識啓発、疑問に答えるといった取組を進めている。

防災訓練は、毎年、年1回行っている取組だが、昨年の9月23日に旭川気象台の千葉次長さんに講演をいただき、昨今の気象の変化や、どのように判断したら良いのかといった基礎的な部分を住民の方に説明いただき、相互理解を深めることができた。

旭川建設管理部から河道内伐木の話があったが、鷓川の本流の合流地点のところまで伐採、倒木の処理も行っていただけなので、かなり川の流れがスムーズになると考えている。



【日高振興局 室蘭建設管理部】

沙流川は、1級河川ということで、国で管理をしているが、平取町の長知内地区から上流については、我々北海道で管理を行っている。令和3年度から、国の交付金をいただきながら、河道掘削の改修事業に取り組んでいる。

沙流川の他の地区については、河道内の堆積土や、河道内の樹木の伐採を継続的に行っている。

【日高振興局 地域創生部危機対策室】

地域の防災力の強化や災害に強い地域づくりの推進、地域特性に応じた防災体制の整備の促進のため、自らの命は自らが守るという自助、地域で助け合うという共助の重要性について、防災教育等を通じて普及・啓発を進めている。

具体的な取組として、「北海道地域防災マスター」の育成では、令和5年9月30日に浦河高校で27名の警察や消防等の防災業務経験者、高校生の皆さまに受講・登録いただき、日高管内で総勢243名の皆さまに、日々の防災活動に従事いただいている。

また、各学校における一日防災学校や防災授業で、Doはぐや防災講和を実施している。引き続き、防災教育を通じて、地域の防災力強化を進めていきたいと考えている。

【日高振興局 局長】

日高振興局管内の取組については、関係する日高町、平取町、気象台、開発建設部と共に連携強化し、防災・減災に対する取組を行ってまいります。



【日高町】

沙流川流域水害タイムラインの運用訓練を実施し、タイムラインに初めて触れる職員が存在する中、非常に有用な訓練となったと実感している。今後も継続して訓練を実施するとともに、大雨災害が発生しそうなときはタイムラインを運用し、防災力を高め、減災に努めていきたい。

また、町内の全小中学校の一日防災学校において、防災教育を実施しており、ハザードや避難場所の確認等を行っているほか、小学校のニーズに対応しながらDoはぐを振興局に実施していただき、防災力を高めている。

【日高町 町長】

タイムラインの意思決定訓練、あるいは運用訓練、小学校での防災教育等にも取り組んではいるが、タイムラインを作ってから実際に使ったことはなく、住民の意識が薄れてきているという印象がある。防災訓練や津波避難訓練に注力していることもあり、住民を入れた水害の訓練は少しおさなりのなっているのかなとも思っており、今後の課題としたい。

地球温暖化で、北海道の雨量が確か1.2倍ぐらいの想定になって、災害リスクがやや倍に今後なるということで、国土交通省でも、河川整備の基本方針を年度内に変更するとお聞きしている。気象変動も含めて、住民への意識の浸透、タイムラインの見直しも含めて取組んでいかなければならないと思っている。



【平取町】

タイムラインを策定後、運用訓練を通じて、日々準備をしている。試行版が、いざという時にきちんと機能するように、引き続き、訓練のほうを充実させていきたい。

防災教室の取組については、振内中学校は毎年恒例となっているが、その他、各校で防災教室に取り組んでいただいているので、お声が掛ければ協力をしている。取組内容としては、授業2コマぐらいを使って、楽しみながら防災意識を高めることを意識して開催している。

地域防災セミナーも定例化しており、住民への防災講話を第一部、第二部を住民参加型の机上訓練という2部構成で、毎年実施をしている。令和5年度については、避難所運営ゲームDoはぐを、日高振興局様の協力をいただき、机上訓練の一部として実施を行っている。今後は、地域防災マスターの方を活用した運用もできないかと考えている。

【平取町 町長】

日高町と平取町は、沙流川という川でつながっているということで、タイムラインも全道で2番目に作ってきた経緯がある。発動するようなものがなかなか無いといった現状と、コロナ禍等もあって、思ったように住民等を巻き込んだ訓練などが実施できなかった事情もあったかと思っている。タイムラインを意識した災害への備えみたいな意識は、以前より強くなった印象も持っているが、さらに効率的・効果的に運用することが求められてくるのかと思っている。

マイ・タイムラインもそうだが、より地区に特化したコミュニティタイムラインみたいなものを重視しなければならない必要があると考えている。温暖化によって災害や洪水も1.5倍になるという推計も出ているので、そういったことも見据えながら、より強化された、効率的なタイムラインのほか、要支援者対策を、町内の防災係だけではなくて福祉や教育委員会などを網羅した中でやっていく必要性が強まってきていると思っている。それらを意識した今後の取組を、いろいろ検討してまいりたい。



<議事(4) 情報提供>

【室蘭地方気象台】

大きく三つの話題を提供させていただく。一つ目が、指定河川における雨量と水位の相関性について。二つ目が、今冬の積雪の深さと累積降雪量の推移。最後に、気象情報の改善。

河川の水位上昇としては、今年度、鶴川と沙流川において周辺の雨量と水位の相関性について調査を行ったところ、だいたい100ミリ程度の雨がまとまって降ると、氾濫注意水位以上となるという確率が高いという傾向が見られたが、事例がまだ少ないといったところで、今後も調査を引き続き行っていきたい。

今冬の積雪の深さと累積降雪量については、1月までとのデータでは、アメダスの穂別、日高ともに平年と比べて積雪量、累計の降雪量ともに少なく経過して状況となっている。

気象情報の改善については、フォローアップの資料と被るところがあるので、不明な点があれば気象台までお問い合わせいただきたい。

気象台から提供する情報について、こういった情報が欲しいとか、こう改善してほしいといったところを、随時、ご連絡いただければ、できるだけ反映していきたい。



【室蘭開発建設部 治水課】

流域タイムラインは、河川の流域を対象に、河川・気象情報をもとに発表する洪水予報など、自ら基本的な防災行動を時系列で確認するとともに、災害後の振り返りに用いることを目的として作成しており、令和5年度の出水期から運用を開始している。流域タイムラインの特徴として、大雨洪水が想定される数日前に、各機関防災担当者とWeb会議ツールを活用して危機感の共有を図ることが主な特徴となっている。

重要水防箇所の更新については、令和4年度までの工事履歴などを考慮し、重要水防箇所の見直しを行っており、今後も、見直しを行って水防管理者への共有を図っていきたい。

水防活動の見える化については、水防団の水防活動を分かりやすくタイムリーにPR・情報発信していくことが非常に重要となっている。水害が発生し、水防活動を実施した場合には、速やかな報告をお願いしたい。

要配慮者利用施設については、国土交通省の避難確保計画の作成・活用の手引きというものが作成されており、施設管理者などの避難確保計画作成や訓練実施の促進などの場面で活用いただきたい。

ワンコイン浸水センサ実証実験については、大雨による浸水被害や河川の氾濫が頻発している状況にあり、面的に浸水の状況をいち早く把握し、迅速な災害対応を行うことが非常に重要となっている。リアルタイムに浸水状況を把握する仕組みの構築に向けて、民間企業と国や自治体など様々な関係者によるセンサの設置や特性、情報共有の有効性などの実証実験を行っている。各地域での活用検討をお願いしたい。



【室蘭開発建設部 防災課】

災害対策用機械の訓練・保有を行っているが、それ以外にも、北海道開発局では除雪用機械や給水機能付きの散水車を保有している。これらの機械は、有事の際に無償で貸付が可能なので、防災課まで連絡を頂きたい。

また、開発局全体で保有している災害対策用機械の一覧と、それらの機械がどのような機能を持っているのか、どんなことができるのかというパンフレットのものを付けているので、有事の際には、確認、問い合わせ等頂きたい。



<閉会>

【胆振総合振興局 局長】

本協議会の取組、関係自治体、関係機関の皆さまの取組方針に基づくフォローアップの状況などを、確認・共有できたことは、洪水氾濫などの被害を軽減するためには、大変有意義であったということであるとともに、こうした顔の見える関係を構築することが、何よりも重要と考えている。

日高町長からの発言にあったとおり、洪水に対する住民意識が少し下がっているのではないかなという重要なご指摘もあった。確かに、平成 28 年の連続台風、日高の奥の方、千栄で橋が落ちるといような大変な災害を経験したわけですが、そういった大災害を、やはり風化させないような取組というのは、非常に大事かと思っている。

平成 30 年北海道胆振東部地震については、5 年経過したが、風化させないように、3 町一丸となって、様々な取組がされているので、そういった形も改めて、我々道庁のほうでも、平成 28 年の大水害も含めた、風化させないような取組も、また考えたい。

今後とも、北海道開発局、室蘭建設管理部をはじめとして、本日、会議に参加されている自治体、関係機関の皆さまと緊密に連携しまして、鷗川・沙流川減災対策協議会が一体となって、防災・減災対策の推進に取り組みたい。



<その他>

【室蘭開発建設部 治水課】

今回の第 11 回協議会は、出水期前に事前の備えと連携を強化し、防災・減災に関わる取組を積極的に進めていくことが大事なので、出水期前の 6 月頃に開催したいと考えている。

後日、事務局にて日程調整の連絡をさせて頂く。

